

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700109		
法人名	株式会社フロンティアの介護		
事業所名	グループホーム いわむらの憩		
所在地	岐阜県恵那市岩村町730-2		
自己評価作成日	令和6年11月10日	評価結果市町村受理日	令和7年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2191700109-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いわむらの憩」は古い城下町(岩村城)の一角にあり、地域の方々と触れ合いやすい環境にあります。季節ごとには、城下町ならではのイベントがあり、ご利用者様も地域の方々と共に楽しむことができます。又、季節の行事にも力を入れ、利用者様に楽しんでいただける様に毎月企画をしています。噴水のある広々とした中庭は安全に散歩していただけるようスロープになっており、ご利用者様も戸外に安心して出かけられ、テーブルやパラソル等ゆっくりと寛げる場もあります。今後も職員が一丸となりサービスの向上を目指し、ご利用者様が住み慣れた地域の中で、ホームの理念でもある「いつも明るく笑顔の絶えない安心出来るグループホーム」でありたいと願っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の住宅型有料老人ホームが同じ敷地内にあり、広い中庭には噴水もある。季節の樹木が植えられており、利用者が自由に散歩が出来る環境である。コロナ禍では自治会活動も縮小されてはいたが、子ども神輿は行われており、事業所への来訪が利用者の楽しみとなっている。ほぼ毎日更新しているブログには、活動の様子や利用者の表情を取り上げながら発信しており、家族の好評を得ている。法人全体で早くよりIT化を図っており、記録時間の短縮が利用者へのケア時間確保につながっている。研修機会を多く設けており、10年以上働くベテラン職員もあり、多くを学びながらより良い支援につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・ホーム理念・介護三大理念・介護の心得・地域密着理念・接遇ルールを全職員に共有している。又理念を基本とした実践に向け、日々意見交換・委員会等の勉強会を開催しサービス向上の取り組みを常に行っている。	法人理念とホーム理念、他にも介護三大理念、職員の心得などがある。それらを各フロアや事務室に掲げ、全体会議や新人オリエンテーションの機会に確認し、全職員で共有しながら、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナから地域の行事やお祭り等に参加が遠のいている。、避難訓練等徐々に開催してきているが、感染リスクを考慮し、未だ地域との交流ができない現状。	自治会主催の行事は、未だに自粛傾向にあるが、子ども神輿やラリージャパンなどの機会に、ホームの外で見学を行っている。コロナ禍以前に行っていた職場体験などの再開が望まれる。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様・自治会長・民生委員が委員となっている。会議内での取り組み状況の報告や意見交換を行いサービスの向上に活かしている。	家族懇談会や防災訓練と併せて開催したり、平日の19時から開催するなど、運営推進会議の開催方法を工夫している。外部評価のアンケート結果なども共有しながら、サービス向上に活かしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険運営協議会・集団指導・などに参加し、情報交換や連携を図っている。又市の担当者の方には、直接出向きサービスに関する相談・助言などを頂いて協力関係を築くようにしている。	運営推進会議には、高齢福祉課の参加を得ており、日々の業務の中では、主に介護保険担当課と連携している。必要に応じて窓口に出向き、担当者と相談しながら協力関係を築くよう努めている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人グループ全体で法令遵守委員会を設置し、身体拘束ゼロを目標に掲げ積極的に取り組んでいると共に、委員会等で更なる意識付けや意見交換を行っている。玄関の施錠は、防犯等の状況に応じて行っている。	法人全体で、法令遵守委員会を設け、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束について意見交換し、研修も行っている。事業所として、身体拘束の事例はなく、今後も「身体拘束ゼロ」を目標に取り組むとしている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に上げられている「介護の心得5か条」を毎朝唱和し、周知徹底している。虐待防止委員会も設置し虐待は犯罪であることの認識を高め、職員に会社独自の虐待防止の冊子を配っている。	虐待防止委員会を設置し、法人全体で研修を行っている。無意識的な虐待が起こらないよう、日々、研鑽を積みながらより良い支援を目指している。外国籍職員には、わかりやすい言葉を使いながら説明を行っている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス委員会等で成年後見制度・プライバシー保護・人権等について勉強会を行っている。成年後見制度を利用している方はみえないが、必要性がある場合の支援体制作りはしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用契約書・重要事項説明書の説明を十分に行い質問・疑問点があれば納得・同意して頂くよう努めている。又契約内容の変更があった場合、ご家族様への説明の機会を設けご理解を頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や荷物を持ってみえた際に意見・要望を都度聞くよう心掛けている。ご利用者様には毎月要望を聴く機会を設け実践に向けて取り組みをしている。体調に関して変化がある際には連絡をとり報告と意向を把握している。	事業所ブログは、ほぼ毎日更新しており、家族から好評を得ている。家族の面会時には、利用者の様子や生活状況等を伝えている。今後、ビジネスチャットツールを使って、運営に活かしていくことも検討している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人代表に直通のホットラインを設け、末端までの意見がトップに上がっていけるようなシステムになっており、速やかに対応出来る体制を整えている。又全体会議・個人面談・日々のコミュニケーションの中で意見や提案を聞く機会を設けている。	日々の業務等については、リーダーを通じて管理者に意見を伝えている。法人代表とのホットラインがあることで、職員の意見が運営に反映されやすい環境が整っている。実際に、職員からの提案により、1モーターのベッドを3モーターのベッドへ変更となった事例がある。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人事考課評価や有資格者などに対して能力に応じたやりがいをもって働ける環境・条件に努めている。又、会社独自の役職を配置し、施設の代表として本社リモート研修にも参加してもらう事により、やりがいや達成感を持てるよう努めている。	法人全体で就業環境が整備されている。職員が働きやすいよう、必要に応じた研修受講、資格取得を奨励し、介護休暇や育児休暇なども取得を可能としている。職員自身が介護離職せざるを得ない状況とならないよう、様々な福利厚生やサポート体制を充実させている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な管理者会議・新人・リーダー・ナース・ケアマネのリモート研修を行なっている。資格取得に向けての情報提供及び参加を促して能力向上に努めている。試験対策の勉強会も本社一括でおこなっている。	年間研修計画を立案し、動画による研修も活用している。外部研修に参加した場合は、伝達研修の形をとり、事業所内で共有を図っている。外国籍の職員にもきめ細かな指導を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナより同業者での交流が困難であるが、法人内でリモートを活用し意見交換をおこなっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様は、人生の大先輩という考えを職員が共有しており、昔からしてきたことや、出来ることを、職員が教えていただくという場面を多く作り感謝の言葉を伝えるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、ゆっくり話を聞くなど思いが表出しやすい環境を整えている。毎月各ユニットリーダーがご利用者様の希望・意向の聞き取りをしている。意思伝達が困難なご利用者様は、日常の表情・行動・生活歴・ご家族様からの情報などを元に把握するよう努めている。	担当職員は、利用者の日々の様子や言葉などから、思いや意向を把握している。それらをリーダーを通じて、毎月開催する全体会議にて共有を図っている。また、場合によっては申し送りノートを活用したり、口頭でも共有を図っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアが出来るように、フロア会議でケア内容を検討し、統一したケアが出来るように取り組んでいる。ご家族様の意見や要望を聞いたり、医師や看護師、理学療法士からの指示や介護職員の意見を聞き現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族の意向を踏まえ、医師や理学療法士など、専門職からの助言を反映させた介護計画を作成している。介護計画はタブレット端末から、全職員が確認をすることが可能となっている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを介護職員が把握できるよう環境を整え、ケアプランに沿った支援が出来ているか、日々の様子や気づきなど個別記録に記入し、申し送り等で、情報を共有しながら、ケアカンファレンスで意見交換し介護計画の見直しに活かしている。	6～7年前からタブレット端末を積極的に活用し、職員が、利用者の状態を詳細に記録している。テンプレートをうまく活用しながら、記録時間の短縮を行うことで、ゆとりを持って利用者に関われる時間が確保できている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や緊急時対応、又は入院中の対応は、ご利用者様ご家族様の希望を踏まえ出来る限り意向に沿った柔軟な対応をしている。身体の状態によっては同グループ内での住替えも案内をおこなっている。	看取り期の利用者においては、自宅に帰りたいという願いを叶えるために、職員が送迎をするなど、柔軟に対応を行っている。通院等も、家族が対応困難な場合は、事業所が代行を行っている。	

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナより地域の行事に参加することが出来なくなっているが、施設内での行事や役割を感じていただきながら、安全で楽しみのある暮らしが出来るよう支援している。また施設内だけではなく庭を活用し外への支援もおこなっている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際、かかりつけ医の変更をされる方は同意の基、ホーム提携医に変更している。受診の際情報提供書にて密な連携をし、適切な医療が受けられるようにしている。又初回往診や状態変化の際にはご家族様に立ち会っていただき、医師とも話をし意向把握に努めている。	入居時にかかりつけ医について説明を行い、本人・家族の同意のもと、かかりつけ医を協力医に変更するケースもある。眼科などの専門家に受診が必要な場合は、原則家族の協力を得て受診につなげている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関の医師・看護師・相談員と細かな情報交換をし、情報を得る事で早期退院が出来る様に努めている。又可能であれば医師からご家族様への状態説明にも同席をし連携を図っている。病院の面会や面談の状況も定期的に確認をおこなっている。	退院時は、リーダーとケアマネジャーが医療機関に出向いて対応することを基本としている。必要に応じて、利用者の状態などを動画で撮影し、スムーズにホームでの生活へ戻るよう支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時や段階的にご利用様やご家族様の意向を踏まえ、事業所で出来る事、出来ない事を明確にし、医師・看護師・職員が連携を取り、納得した最期を迎えられるようその都度意思確認をし、記録に残して全職員で共有するよう努めている。	本人家族の意向を状態変化に応じて確認し柔軟な対応に努めている。看取り希望者には指針に基づき、きめ細かな支援を行っている。家族の協力のもとで利用者を自宅へ送り、「ありがとう」と、感謝の言葉を残して逝かれた事例もあり、職員の励みとなっている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による救急時の対応、連絡体制等定期的に勉強会を実施したり、介護職員が喀痰吸引講習を順次受けるなどし、急変時適切な対応が出来る様に努めている。連絡体制も整えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練の実施や災害時の訓練等勉強会など定期的に行い職員の意識を高めている。災害時の食事や水、自家発電機等の確保もしている。施設でBCPを作成している。地域住民の方の協力等をお願いしている。又施設の敷地内を災害時に活用してもらえるよう案内もおこなっている。	BCPを作成しており、今後、研修機会を通じて見直しなどを行っていく予定としている。避難訓練を実施し、避難ルートの確認や災害時における様々な訓練を行っている。食料品などの防災備蓄品は別棟の建物内に保管している。災害時は、地域に対して敷地内を開放する備えがある。	災害に向けて、様々な備えをしているものの、棚の転倒防止策や車いす利用者も含めた避難経路について、今一度、再確認を行い、安全な避難についての検討を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束・虐待防止・権利擁護等の勉強会を行いながら理解を深めている。また、ご利用者様の誇りや自尊心を侵さない環境作りや介護を出来るように努めている。言葉遣い等職員同士でも注意し合えるようにしている。新人職員にも分かるよう何度も繰り返しながら対応している。	職員研修や接遇研修で、利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシー確保について全職員に周知を図り、理解を深めている。日々の支援の中で職員個々の気づきを共有し、外国籍の職員にも、わかりやすい言葉で説明している。本人本位の支援を行えるよう全職員で取り組んでいる。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の意思を尊重し、自己決定が出来る声掛けに努めている。フロアだけでなく居室や入浴時等1対1で思いが出しやすい環境を作れるよう心掛けている。自己決定が困難な方には2択で選びやすくしたり、時間を選択してもらえよう工夫して本人の無理のないよう意向に合わせて介助している。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様全員が同じ事をするのではなく今やりたい事や興味がある事を聞きながら安全を確保した上でご利用者様一人ひとりのペースに合わせ、庭への日向ぼっこや散歩・レク等、希望に応じて出来る限りの支援をしている。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設で採れた野菜をメニューに加えたり、季節料理や郷土料理など取り入れ、利用者様と共に作り楽しみながら、イベントも兼ねておこなっている。ご本人が食べたい物をお聞きしご家族様に依頼したり代行にて買い物をおこなっている。	本社が依頼した食材を利用し、オープンキッチンで職員が調理を行っている。事業所内で育てた野菜を利用したり、季節のイベント食も取り入れている。食事に関してのアンケートを実施し献立に反映させている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立を基に食事提供量、食事形態、箸やスプーン等ご利用者様に応じて対応している。水分量の少ない方にはご利用者様の好きな物を提供したり、寒天や時にはアイスの提供にて支援している。食事摂取量が少ない方には栄養補助ドリンク等利用している。又、摂取する場所・時間も本人の意向に合わせている。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者様が口腔ケア出来るよう声掛け、支援をしている。ご利用者様に応じて見守り、一部介助を行い夜間には義歯洗浄剤による洗浄支援をおこなっている。歯科衛生士より口腔ケアについての指導を月1回おこなっていただいている。	フロア内にある2つの洗面台を利用し、口腔ケアを行っている。職員が利用者に声をかけ、状態に応じて支援を行っている。月1回の歯科衛生士の訪問があり、指導を受けながら、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを把握し、時間を見ながらさりげなく声掛け誘導を行いトイレでの排泄が出来る様自立支援を行っている。ご利用者様の状態や希望に応じて夜間のみポータブルトイレを設置している。水分摂取量やご利用者様の言動を把握しトイレの声掛けをおこなっている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様に声掛けしその日の気分や湯加減、入浴剤の有無、タイミングを伺い支援している。入浴習慣や入浴の順番もご利用者様に声掛けをおこない思いに沿って入浴ができるよう配慮している。又入浴前には必ずバイタルチェックをして安全・安楽に入浴できるよう支援している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動参加を促しながら希望や体調に合わせ、休息できるよう環境整備をしている。一人ひとりに合わせて室温調節や照明環境を対応している。又不眠時にもご利用者様の話を傾聴したり、お茶の提供等安心できるよう支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の服薬ファイルを作成し、薬の目的や副作用等把握出来るよう薬剤師との連携を行っている。薬変更後の状態変化についても医師と連携している。服用時には服薬管理システムを活用し対応をしている。	薬剤情報はQRコードを活用、タブレット端末内で管理しており、必要に応じて、いつでも情報の確認ができる。薬の変更時には医師や薬剤師と連携し確実な服薬支援を行っている。紙媒体でも薬情が一元化されているため緊急時に持ち出し可能である。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話より、したいこと出来ること等を汲み取りカンファレンスにて話し合い、プランに取り入れている。また自分の仕事と認識して定期的に作業が出来るよう環境を整えている。レクや散歩等にて表情の変化なども把握し、次回の支援の参考とするようにしている。	これまでの生活の中で利用者が出来ること、楽しみにしてきたことを、事業所の暮らしの中で継続できるよう働きかけ、支援を行っている。実際にスポーツ紙が好きな利用者は、入居後も、引き続き楽しみながらスポーツ紙が読めるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の庭での散歩を日課としておこなったり、お茶を飲んだり外での時間を作れるよう支援している。希望を聞き、近くの喫茶店に出かけたり、ご家族様の協力を得て、外出の機会を設けている。	同法人の住宅型有料老人ホームが同じ敷地内にあり、広い中庭には噴水もある。桜や紅葉などの樹木が植えられており、季節を感じながら自由に散歩をすることもできる。近隣には喫茶店もあり、職員と利用者数人で出かけることもある。	

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様で財布を持っていないと不安な方には個人で持っていていただき、本人と一緒に確認をおこなっている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に応じて電話にて連絡が取れるよう支援している。ご家族様からの手紙等は本人に持ってもらいいつでも見られるようにしている。個人で携帯電話を持ってみえる方には充電等を支援しご家族様と連絡をとれるようにしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下にはソファを置き、利用者様同士会話を楽しめる空間を作っている。玄関、フロアには常に花や飾りを置くようにし、季節を感じて頂けるよう配慮し、利用者様と一緒に季節にちなんだ飾りを作り、カレンダーを作成したり季節をいろんなところで感じて頂いている。	玄関フロアには、季節の花や観葉植物を飾っている。リビングや廊下には、利用者の作品や職員との共同作品や飾りが掲示され、季節を感じられるよう工夫している。廊下にもソファが設置しており、利用者は好きな場所で寛ぐことができ、居心地良い空間となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、好きな時に気の合った方と話ができるようスペースを作っている。又、感染状況等に応じて違うユニットや庭に行き、お茶やおやつを一緒に頂いたり、一人になりたい時に使えるよう椅子も配置している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を使用する事での利点などをご家族様に説明をし、協力を得て家から馴染みの物を持ちこんでいただいたり、家族の写真を飾り安心できるよう支援している。自分の好みに合わせ安心できるよう居室を模様替えしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等理解しやすいようプレートを貼ったり、一人ひとり出来る事、解かる事を把握し、転倒リスクや状態に応じて家具や、ポータブルの配置を変えたり、張り紙等をしたりして居室内・廊下等環境整備に日々努めている。		